

「ささえ」

2015 年 10 月発行 情報誌 第 53 号

発行NPO福祉用具ネット事務局

住所: 福岡県田川市伊田 4395 (福岡県立大学内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyogunet@sage.ocn.ne.jp

新 URL <http://npofukusiyogu.sakura.ne.jp>

情報誌「ささえ」は年 4 回(1 月・4 月・7 月・10 月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神 1 丁目 13-5

福祉用具はあなたの自立をささえます。

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします。

【商品名】自動排泄処理装置
尿吸引ロボ「ヒューマニー」



夜ぐっすり眠れるから
昼間頑張れる！



【発売元】大和ハウス工業(株)

【商品名】床ずれ防止用ハイブリッドマットレス
「アルファブラ ソラ」

SORA



新発売
ハイブリッド型
車いす用クッション

【商品名】

アルファブラ
ソラ クッション



【発売元】(株)タイカ



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育てていきたい…」

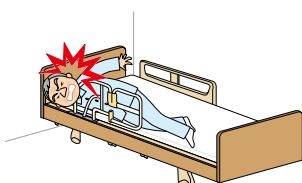
ベッドメーカーから介護現場の皆様へ 介護ベッドまわりの事故防止のために知っておきたいこと その2

(株) プラッツ 取締役広報室室長 石橋弘人
(医療介護ベッド安全普及協議会広報部会長)

前回の内容

全国で約 400 万台使われている医療介護用ベッド（以下、ベッド）においては、2007 年以後、約 100 件の重傷死亡事故が起きています。

多くは、2009 年の JIS 規格改定以前のベッドで起きており、また、7 割はサイドレール関連の隙間等において事故が発生しています。特に危険なのは図の様に 6-7cm 程度の隙間に首が挟まる等の事故で、その概要と対策について書かせて頂きました。



今回は、サイドレール以外の事故概要と対策について報告致します。

●サイドレール以外の重傷死亡事故状況と対策

下の表のように日本福祉用具・生活支援用具協会（JASPA）の報告では、2007 年から本年 5 月までの重傷事故数は 103 件発生しており、その内 32 件はベッド関連で事故が発生しています。

また、事故原因は、以下の通りで約半数が取扱いに起因しています。

消安法重大製品事故集計表（2007年5月14日～2015年5月15日） JASPA作成

品目	製品起因	死亡	重傷	軽傷	火災	計
介護ベッド	製品起因		4			4
	起因未特定	4	6		1	11
	起因不明		1	1	1	3
	非製品起因	7	5		1	13
	非重大			1		1
計		11	16	2	3	32
介護ベッド用手すり	製品起因	6	6			12
	起因未特定	9	8			17
	起因不明	1	1			2
	非製品起因	22	18			40
	非重大					0
計		38	33	0	0	71

ーベッドの背上げによる事故ー

ベッドの基本的な動作に背を上げる・下げるといった動きがありますが、自分で体を動かすことができない人を背上げすると、必ず「背圧」という圧力が背中や肩に発生し、放置すると呼吸困難になる場合もあり非常に危険です。

原因は、背上げ中にマットレスと人の間にずれが発生するためです。



特に図のようにずれた状態で背を上げると、背圧も腹部の圧迫も強くなります。また、床ずれ部位が裂けるなどの問題も発生しやすくなります。

<対策>

図のように人とマットレスの間に手を入れるなど人とマットと離すことでズレ圧力が無くなる「背抜き」と言われる行為を絶対に行って下さい。

最新のベッドではこれを緩和するための様々な機能がありますが完全に無くすことは困難です。「背抜き」を必ずやりましょう。



ーベッドからの転落・転倒ー

ベッドから起き上がる時、立ち上がる時の転落・転倒事故が全国で発生しています。

原因は、様々ですが、立ち上がりやすい高さは、マットレスの高さを利用者の膝下から床までの高さに合わせることで。低過ぎると筋力が必要になり立ち上がり難しくなります。また、高すぎると転落時の衝撃が強くなります。

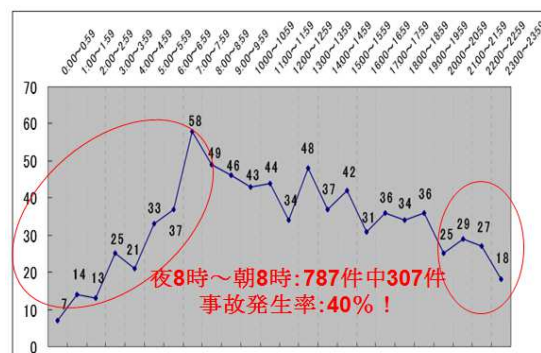


<対策>

東京の世田谷区が出している事故の資料では夜 8 時から明け方 7 時までの事故は 4 割もあります。

世田谷区 平成25年介護保険事故報告書より

事故はいつ起きる？



この時間帯の事故は重症化しやすいので、寝る前に高さを合わせておきましょう。

また、血圧変動により立ちくらみを起こし、転倒するケースもあります。ベッドの背上げ機能を使ってゆっくりと起き上がることで血圧変動にも対応ができますので、夜中や明け方には積極的に使って下さい。

※介護者の腰痛対策

多くの看護・介護者で腰痛のある方が増えています。

図のように体を使って起こしたり、立ち上がらせたりすると腰や肩に大きな負担がかかります。

痛みが発生すると利用者を抱えたまま転倒することもあります。

このような状況を踏まえ、厚労省では腰痛対策指針の中で「抱きかかえ上げ」をしないように指導をしていますので、ベッドの場合であれば、背上げ・昇降機能を積極的に使って腰痛予防、事故予防に役立てて下さい。



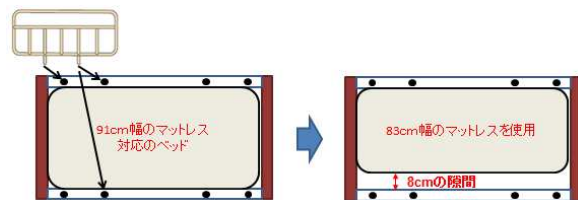
● 電動の背上げ機能で、スムーズ。



ーマットレスに関する事故ー

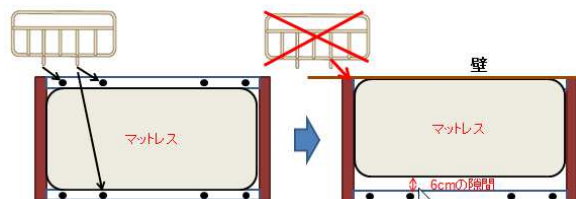
マットレス関連では、右図のようにマットレスとサイドレールの間に頭や首、足が挟まる事故が起きています。

事故原因の一つに「マットレスのサイズ間違い」があります。例えば、下図のように91cm幅が基本である在宅用介護ベッドに、病院用マットレス（幅83cmが基本）を組み合わせると8cmの隙間が発生し挟まりやすくなります。



また、在宅においては壁側にベッドを設置する場合がありますが、

「壁があるから人は落ちないだろう。よって、サイドレールは不要」とレールを設置しないと、マットレスが壁側にズレた場合約6cmの隙間が発生してしまいます。「壁があるから」と安心せず必ずレールの設置をお願いします。



注意：「マットレス止め」もありますが、簡易的なものであり、マットレスがこれを乗り越えてズレていることは多々あります。

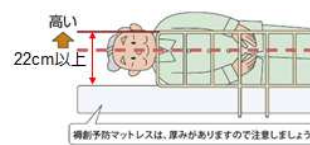
ー簡単な対応方法ー

壁側にずれないように壁とマットレスの間に枕やクッションを入れましょう。

<恒久対策>

ベッドの取扱説明書に記載されているマットレスサイズの物に交換して下さい。

マットの厚みについても遵守しましょう。レールを乗り越えて転落する事故も起きてい



ますので、JIS規格では「マットレスからレールの上部までは22cm以上」という規定もあります。

最後に

ここ数年はベッドの事故数も激減し年間数件とはなっていますが、2025年問題もあり、在宅医療が増加していきますので、今後は在宅での事故も増えていくことが想定されます。

看護・介護の専門職はもちろん、介護をされている一般の皆さんへの更なる注意喚起が必要です。

一人でも多くの方に関心を持っていただき是非事故予防に役立てて頂きたいと願っています。

医療介護ベッド安全普及協議会のホームページでは、動画を使ったわかりやすい事故予防資料などもご用意していますので是非ご活用下さい。



「ベッド、事故」で検索！

研修会・交流会の報告（7月～9月）

NPO福祉用具ネット理事 長谷川節子（田川市立病院）

交流会②「抱え上げない介護技術を体験しよう」

ケア現場の環境が整っている北欧やオーストラリアでは介護者の腰痛が少ないことはもちろん利用者の拘縮も少ないといわれていますが、最近になってやっと日本でも「抱える・引きずる・持ち上げる」などのまちがった動作介助が床ずれや拘縮の発生や悪化につながることが意識され始めました。NPOではこれまで4回、下元佳子先生（うえるば高知）から教えていただいた動作介助やポジショニング技術を実際の現場で行いながらスキルアップをめざしています。



今回はNPO理事である作業療法士の山形先生がトランスファーボードやシートを中心にした体験型学習を指導してくださいました。先生は日本リハ工移乗機器SIG役員としてもご活躍ですので、国民病ともいわれる腰痛と就業の関係、厚生労働省の腰痛予防対策指針等の法律に基づいた話も踏まえ、日本の腰痛対策の現状をわかりやすく解説されました。特に福祉・医療・介護の分野の人材確保において、腰痛対策は重要な課題です。さらに移乗介助の現状から問題を整理し、移乗動作といえは立位での移乗があたりまえのように考えられがちですが、利用者の運動機能レベルによっては座位移乗やリフトの導入などを積極的に検討することで介護者と利用者双方に負担のない介助法が可能になること、またボードやシートを移乗のための道具としてではなく筋力の低下した手足を動かしやすいするための道具として使用したり、体をスムーズに動かす感覚を経験するために使うなどの発想の転換も興味深いものでした。私たちセラピストは人間の身体の動きに関してはプロフェッショナルであり、動作介助にもある程度の経験があるという自負があったのですが下元先生・山形先生たちの話や昨今の褥創治療に関する指針をみると、時代の流れとともにその内容も変化していることを痛感します。「心地よい介助」が体に及ぼす影響は大きなものなのでしょう。その逆は？自分が行っている方法はまちがっているのでは？などと疑問を持ち続けることは大切なことだと思います。山形先生のお人柄もあって、今回の研修では皆の疑問を出し合い、体験しながら解決策を考えていくというほのぼのとしながらも充実した時を過ごすことが出来ました。

交流会③「現状の排泄ケアの課題について一緒に考えましょう」

まずは「おむつケア」について福岡市介護実習普及センターの保健師である辻奈美さんから進化するおむつの話、選び方、つけ方について教えていただきました。私自身、おむつフィッターの講義を受講した経験があるものの、日々の業務の中で、排泄ケアに対する意識はとても低く、反省材料ばかりです。恥ずかしながら病院の中で、おむつサイズの選び方やギャザーの立て方、尿とりパッドのおさめかたを真剣に考えているスタッフはほとんどいないのではないかと思います。最近では業務多忙な看護師の負担を軽減するため、食事・排泄・入浴などの日常生活動作の援助はできるだけ助手さんをお願いするという国の指導もあって、看護師が患者の排泄支援に直接かかわる事が減ってきています。テープのとめ方ひとつで足の動かしやすさがかかわることやサイズの合っていない大きなおむつが姿勢にまで影響し、ADLの拡大を阻害していることは急性期の治療の場面でも知っておかなくてはならないことを痛感しました。引き続きグループワークでは現状の排泄ケアの課題について各職種からの意見を集約し、発表するなどしながら皆さんから意見を頂きました。会場には看護師、ケアマネージャー、ヘルパー、リハ職など、訪問や施設の現場で排泄ケアにかかわる人ばかり。生の声からは問題や苦勞が伝わってきます。介護保険がスタートして以来、ベッドや車椅子に代表される福祉機器や動作介助の方法、精神面への支援の方法などはずいぶんすすんできた感があります。しかしながら排泄介護はずっと以前から現在まで、最も過酷な介護だと言われ続けています。排泄という、デリケートな問題ゆえに困っている人がなかなか声を上げられない、とりあえず漏れがなくなればそこで落ち着いてしまうため生活の質を上げるというところまでの発想に至らないなど、辻先生の言葉は深いものでした。私の知る限りNPO事務局長の大山さんはここ数年、排泄ケアに最も力を注いでいます。自動排泄処理装置の開発・検証・普及にささげる情熱は並大抵ではありません。看護師である大山さんが経験し、みてきた排泄介護の現状が、利用者さんとその家族の負担をなんとか軽減してあげられないかという気持ちの原動力になっているのでしょう。こんなに身近に排泄ケアのプロたちがいてくれるありがたさを感じながら、「困ったことはまずここに相談しよう」という思いを確信した研修でした。

2015年西日本国際福祉機器展の歩き方

NPO福祉用具ネット理事 山形茂生

1. セミナーを確認しましょう。

西日本国際福祉機器展は、東京で開催されている国際福祉機器展や、大阪のバリアフリー展と比較すると福祉機器の展示数は、小規模となっています。しかし、セミナーについては、どの展示会よりも数多く、九州地方を拠点として活躍されている方々の話が聞け、身近なものになっています。また講師の方と名刺交換などを行うことで、人脈を広げるチャンスにもなります。この3日間で色々な専門分野についての話を聞くことにより、知識を広げられる濃密な機会になると思われます。NPO 福祉用具ネットのセミナー内容から、今回の西日本国際福祉機器展の歩き方のポイントについてまとめてみました。

1-1 電動ベッドについて

メーカーの方からの話となっており、電動ベッドの事故例を分析し、得られた情報から、どのようにベッドが改良され、付属品を含めどのような視点から選択していけばよいのかなどポイントについての話が、聞けると思われます。製造する側の話を聞く機会は、数多くはないので、現場にいる私たちの視点にはない知識を広げる良い機会になると思われま

1-2 床ずれ予防のためのポジショニングについて

床ずれの原因として、寝かせきりや座らせきりにすることで、身体の特定の狭い面積部分に圧がかかることによりできるとされています。寝ている対象者に、隙間があるから、単にクッションを寝具と体の間に入れればよいのではなく、姿勢や圧がかかっているところなどを観察、確認をしながら、全身の状況を見極めます。そして、体重を分散させるために、クッションを差し込む方法などの具体的な技術の話が聞けると思われます。

1-3 キネステティクスについて

ポジショニングクッションなどで、臥位や座位の姿勢を整えることができたとしても、介護者が姿勢を変換する時や移乗動作時に、無理に身体を動かす介助を行うことで対象者の筋の緊張を高めてしまうことが多くあります。対象者に不快な思いをさせることは、介護者として望ましいことではないと思います。キネステティクスの技術を、新たに学ぶことで、自分の介護方法を見直し、今までとは違う、対象者の安楽そうな表情や、楽に感じられる技術についての話が聞けるのではないのでしょうか。

1-4 腰痛予防セミナーについて

トランスファーボードやシートなどを用いた移乗動作を難しいと感じ、車いすが普通型しかないのでは、できないと思われる方々が、多いのではないかと

思われます。そうではなく、道具を使用することが難しくないと思われる方法や、介護環境を変えるヒントとなる話が聞けるかもしれません。また、重度の身体障がい者の移乗動作は、二人介助が当たり前と思っていた方も多くいると思われます。しかしリフトなどの移乗機器を使用することで、人の手による介護よりも、安全・安心に移乗できることを学べると思われます。

1-5 口腔ケアについて

高齢者のお口のケアをすることで、食事時によくむせていた対象者が、むせが少なくなりおいしく食事ができるなどの効果が期待できます。その具体的な技術や、身近な道具の工夫をすることで、口腔ケアが行いやすくなり、容易となるポイントを含んだ話が聞けると思われます。

1-6 オムツの選び方・当て方について

今まで行ってきた尿取りパッドやオムツの装着方法や選び方を見直す良い機会になると思われます。尿取りパッドやオムツの構造を理解し、装着方法を学ぶと、対象者が今まで「なぜオムツの中に手を入れるのか」「座位姿勢や歩行能力が日々違う」など感じていた疑問が、解消されると確信しています。

1-7 日本介護美容セラピスト協会について

九州の介護職員を対象に開催されている「美容セラピスト」の紹介や、お年寄りが、お化粧し、きれいになることで、表情や声のトーンが明るくなっていく様子の話が聞けると思われます。またこのような取り組みをすることで、利用者だけでなく、職員が生き生きと元氣な職場になるヒントとなる要素が多分に聞けるでしょう。

2. セミナーを聞いた後に、実際の福祉機器を手に取り体験をしよう。

セミナーで話を聞いて理解したつもりになるかもしれないが、聞くと体験するのでは、全く違うことが往々にあることは、承知の通りです。よって今回、得た知識をわかったつもりにならず、展示場で恥ずかしがらずに、実際に体験することが大切です。また、正直にわからないことについては、出展者に聞きながら、適切な指導を受け、現場に生かしてもらいたいと思います。さらに、このような積極的な行動が、メーカーの方と顔見知りになるきっかけとなり、自分の職場で勉強会など開催するようにつながれば、なお、良いのではないのでしょうか。

今回、紹介したセミナー以外のセミナーにも、積極的に参加してもらいたいと思います。

NP0 福祉用具ネット ものづくり支援センターのご紹介2

ものづくり支援センター長 坂田 栄二

1. ものづくり支援センターの活動内容

「ささえ」51号で概要を紹介しましたが、今回は詳細に紹介します。

支援センターは、健康・医療・福祉・介護分野で必要な機器や道具の商品化の支援に加え、これらの分野でのサービス事業の立案から立上げまでの支援も行っております。

もう少し詳しく説明します。

開発段階を大きく区切ると

- (1) 商品企画段階（市場探索）
- (2) コンセプト設計段階
- (3) 開発・試作段階
- (4) 製造サービス供給段階
- (5) 販売・マーケティング段階

となります。

今回は「商品企画段階」について説明します。

2. 商品企画段階で 成功・失敗は決まる。

(1) 商品企画段階

ご相談に来所される方は、しっかり環境調査を行い、どんな事業にしたいかというプランを絵にかいている方もおられますが、漠然とした思いで、“とにかく商品が出来上がれば”という方もおられ、特に新規参入を目指している方に見られる傾向です。

この背景には、迫りくる少子高齢化のための対策として、またアジアを中心とした日本式医療・介護の新たな市場開拓を目的に、政府は「日本再興戦略（改訂 2015）」のなかで、「医療・介護・ヘルスケア産業の活性化・生産性向上」を掲げ、新規参入を促していることも要因の1つかもしれません。

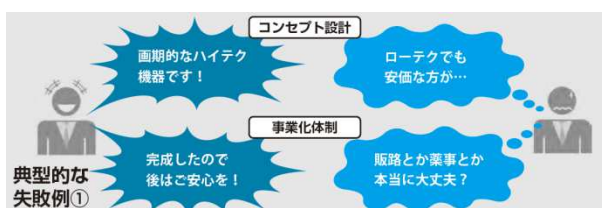
これまでの経験からすると多くの場合、この商品企画段階で成功・失敗が決定されるといっても過言ではありません。

異業種から新規参入する企業にとっては、医療・介護・ヘルスケアはあまり馴染のあるものではありません。

しかし、高度な自社技術をお持ちの企業は、その技術を駆使し、

「もっといい商品を創ろう」

「せっかく新規参入したからには、更に高付加価



値商品に仕上げたい」

と意気込んで、机上の検討を行い、ハイレベルの医療機器や介護用品を開発してしまいがちです。ハイレベルの機器ですから開発途中で現場実証では、素晴らしい効果を発揮して高評価になり、開発者は満足します。

「これは喜ばれるぞ。」

「これは売れるぞ。」

ということになりますが、多くの場合、販売会社が敬遠して取り扱わなかったり、たとえ取り扱ってもあまり売れていないようです。

「優れた商品は自然と売れる」ことはないのです。医療・介護商品は、“今、欲しい”商品なのです。

そして医療・介護現場が求めているものは、

「ローテクでもいいから安価な製品を」

なのです。

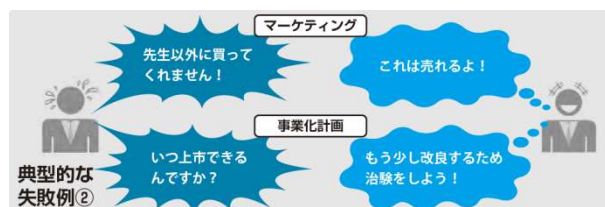
これが現実のニーズであることが多く、このニーズが商品に反映されていないのです。

本来は進出する分野の環境をじっくりと調べる必要があります。

3. みんなが必要とするニーズですか？

もう1つの典型的な失敗は、「ビジネスが成立しない商品の開発」です。

どんな商品を作れば良いのかニーズが判らないときや、先進的な治療・介護現場のニーズが知りたい



時、私たちは施設や大学を訪問します。

このような先端的治療・施療を行う大学などでは、身近なニーズはたくさんあり、大いに参考になります。しかし、他方では独自の施療技術の研究開発を行っておりますので新施療に必要な新規の機器や用具のアイデアもたくさんあります。

そのような現場にヒアリングに行くと、

「こんなものはできないか？ぜひ開発してくれ！

必ず売れるよ。」

と提案されます。

医療現場の経験の少ない私たちは、

「これは良いネタを仕入れた！」

と喜んでさっそく開発に着手することでしょう。現状としてどんな施療が行われ、どんな器具が使用されているのかこれまでの状況も把握してないままに、開発を進めてしまいます。

高額の開発費と人手と会社の威信をかけてようや

く完成した商品は、果たして売れたのでしょうか。

購入してくれたのは、実はその先生と仲間の方たちだけだったという話をよく聞きます。

先生方は、その商品（器具）を使って、「一症例」として論文発表し、成果を上げることができますが、ほとんど売れないニッチな商品ということで終わってしまいます。

また、こんなケースもあります。

多くの場合は、試作品が出来ると、その先生が現場で使用具合を検証して、改良点を指摘しますので、改良に改良を重ねる作業が続きます。先生は、最高の品質を求めますので、改良を止めるわけにはいきません。

その結果、市場に出すタイミングが遅れ、価格の安い競合品が先に出たり、更に新しい施術が開発されて、時代遅れの無用な商品になったりすることがあります。

このような場合は、開発投資は回収できないことになり、企業は大きな痛手をこうむります。

4. まずはここから始めよう

では、この初期の段階で私たちは何をすれば良いのでしょうか。

次のようなことが必要になります。

i) 参入パターンの検討

まず、自社技術と社内体制を見極め、どんな事業が可能かを想定し、それに応じて必要情報や情報入手源、相手先を検討します。

想定される参入パターンは、次のような4つのタイプがあります。

①研究開発タイプ

新しい機器や技術の試作・開発に徹します。

パートナーは、医療・介護機関、大学、研究所、大手販売会社が挙げられます。

○試作だけであれば基本的に薬事法などの規制は、それほど気にする必要はありません。自社に足りない試作技術は、自社ネットワークでカバーします。

○技術開発を請け負う場合は、自社に関連する技術シーズ（ベース）を持っていないと、途中で行き詰りかねません。欲を出さずに見極めることが必要です。優れた技術が開発できれば、そのまま部材供給事業に成長することもあります。

②部材供給タイプ

自社の特性を活かして、医療機器製造業者に部材・部品を提供します。多くの場合、単なる部材供給では薬事法の法規制は影響しませんので、参入は楽になりますが競合他社も増え、価格競争が起きます。少しでも自社技術を織り込んでオリジナル部品に上げると、他社との競合を回避できるでしょう。

③製造業タイプ

医薬品医療機器等法で規定される製造業者になることで、完成品まで仕上げ、量産供給できますが市販することはできません。

また製造業者として認められるには、社内体制を作り、県などに届け出をする必要があります。そのためには医療機器の生産、品質（QMS）が判る人材の確保が必要です。

介護機器・用具の製造の場合は、このような規制はありませんので、自由度は高くなりますが、その分だけ、競合会社も増えます。

④医療機器メーカー

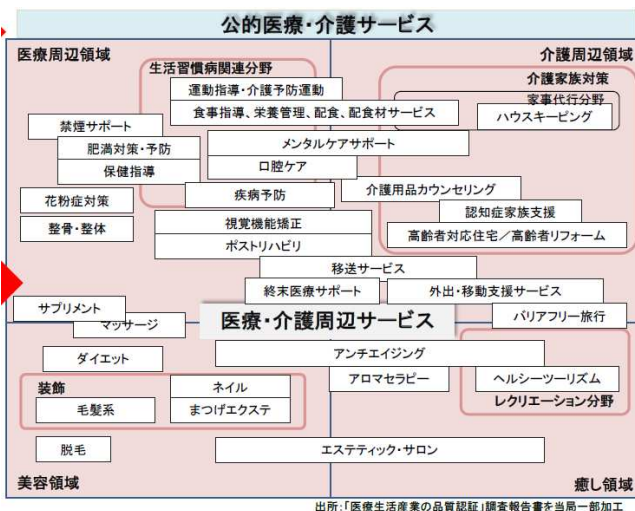
製造業者は、直接販売はできません。販売するには、製造販売業の許可が必要です。この許可取得には医薬品医療機器法等のハードルは一層高くなります。

また、販売に伴って、生産管理、市場での責任など対処すべき事柄が沢山あります。

このように参入パターンは色々想定されますので迷うときは、「ものづくり支援センター」までご連絡ください。

ii) ニーズの見極め

何を作ろうかをいきなり考える前に、医療・介護の分野を熟知することが先決です。



国が進めるヘルスケア産業を大別すると、医療周辺領域・介護周辺領域に加え、美容領域や癒し領域も含まれると考えてよいでしょう。

5. あなたの技術でどこから攻略しますか？

まずは上記表の核テーマをじっくり理解してください。いきなり難しい医療機器にチャレンジするのは大変と思う方は、今注目の美容・癒し領域も魅力的です。（次号へ）

（参考文献：医工連携による医療機器事業化ガイドブック（2015年3月版、経済産業省）

事務局だより

＜27年7月から9月までの事務局のうごき＞

6月 前号のつづき

- 6月13日 福岡市研修会聴講
- 6月17日 事例相談
- 6月18日 コーディネーター業務 長崎
- 6月19日 事例相談
- 6月22日 事例相談
- 6月24日 事例相談
- 6月25日・26日・29日 開発相談

7月

- 7月4日 交流会② 抱え上げない介護技術を習得しよう
事例相談
- 7月7日 開発相談
- 7月8日・9日 企業コンサル業務 東京
- 7月10日 開発相談
- 7月13日・14日 開発相談
- 7月14日 事例相談
- 7月15日 開発相談
- 7月17日 開発相談 福岡市2件
- 7月21日 開発相談
- 7月22日 企業と打ち合わせ
- 7月23日 開発相談 福岡市
- 7月25日 交流会③ 現状での排泄ケアの課題について考えましょう
- 7月27日 第4回福祉用具研究会
- 7月29日 福祉用具体験講習
- 7月30日 企業コンサル業務 福岡
- 7月31日・8月1日 企業コンサル業務 東京

8月

- 8月3日・4日 プロジェクト会議 福岡
- 8月8日 福祉住環境コーディネーター協会見学会 福岡市
- 8月13日 事例相談
- 8月17日 事例相談
- 8月18日 事例相談
- 8月19日 開発相談
- 8月24日 コーディネーター業務 福岡
- 8月26日 第5回福祉用具研究会
- 8月29日 研修会③ コミュニケーションと心のケア【パート3】

9月(15日まで) ささえ編集・発送

情報誌ささえ53号発行準備

- 9月5日「事務局長のブログ」一周年
- 9月3日 西日本国際福祉機器展展示ブース決定
- 9月8日 西日本国際福祉機器展排泄ケア展示打合せ
- 9月9日・10日 プロジェクト会議 福岡
- 9月12日 交流会④ 現場で困っている動作介助
- 9月15日 第6回福祉用具研究会

＜ご報告(7月から9月)＞

各種研修会・交流会のアンケート結果はホームページに掲載しています。

7月4日(土)13時から17時 交流会②

抱え上げない介護技術を習得しよう 体験学習会

7月25日(土)13時30分から16時30分交流会③

現状の排泄ケアの課題について一緒に考えましょう！

7月29日(水) 福祉用具体験講習 2015 (福岡県立大学内)

8月8日(土) 13時30分から15時30分

福祉住環境コーディネーター協会見学会

介護ベッドメーカー(株) プラッツ展示場見学とセミナー (福岡県大野城市)

8月29日(土)14時から17時 研修会③

コミュニケーションと心のケア【パート③】

～癒しとは何かを考える3時間～

9月12日(土)13時から17時 交流会④

現場で困っている動作介助

～キネステティクス®の概念で考える介助法～

9月26日(土)13時から17時 学習会②

動作介助とポジショニング技術フォローアップ研修

＜今後の予定10月～12月＞

10月7日から9日 東京国際福祉機器展

10月14日 排泄ケア研修会(飯塚市)

10月16日 プロジェクト会議 福岡市

10月29日から31日 西日本国際福祉機器展

展示とフースセミナー開催

10月31日(土) 西日本国際福祉機器展セミナー

【FJC協会との共催事業】 講師 大淵哲也先生

「姿勢が変われば暮らしが変わる」

午前の部 10時30分から2時間《座位と食事姿勢》

午後の部 13時30分から2時間《ギャッチアップとエアマット上姿勢》

受講料は無料ですが事前申し込みが必ず必要。

(NPO福祉用具ネットの会員さんはNPO福祉用具ネット事務局でも申込みを受付けます。)

11月14日(土)交流会⑤ 福祉用具最新情報

12月5日(土)交流会⑥ 地域包括ケアシステムを見据えて、在宅高齢者をささえる課題と工夫について語ろう！

12月5日(土) 18時から忘年会

12月12日(土)・13日(日) オムツフィッター3級の研修会 (申込受付を終了)

12月12日(土)＜おむつ検定＞受付中。受検の申込み用紙はNPO福祉用具ネットのホームページに掲載しています。

『事務局長のブログ』コーナーに日々の出来事を掲載中です。時々のでいてみて下さい。